

私が所属する愛知工業大学経営学部経営学科の最寄り駅は名古屋市営地下鉄名城線の自由ヶ丘駅である。この名城線沿線には多くの経営系の大学があり、学生獲得の主戦場になっていると言えらるが、よくよく考えてみれば、各大学が獲得する学生の学力レベル（偏差値）も異なれば、経営系の大学といっても工業大学にある経営学部として特徴ある経営学教育をすれば他の経営系大学と差別化され、その教育

工業大学の経営学科で何が学べる？

であった。よく経営工学科は何を学ぶ学科なのか、とたずねられるが、元来、工場の経営管理を対象にして生まれた学問分野であり、私が学生のころ（今から25年ほど前）には、履修科目に生産管理や品質管理、簿記・会計、財務管理、製図、電気工学、工場実習などまでもがあった。

しかし、今日では企業が商品とする対象にはソフトウェアやサービスを含め多様となり、学問領域も企画・設計から販売までの企業の全部門にわたる活動を取り扱うようになり、広く組織の経営全体に対して適用できる科学的理論と実践的技術を統合した学問に発展してきた。これに伴い、経

現在、当経営学部経営学科には経営情報システム専攻とスポーツマネジメント専攻の二つの専攻があり、専門的教育科目は経営者育成、ものづくり技術経営、経理・会計、企画・営業、ITといった五つの科目群にわけられている。

そのため、学生は自分の将来のキャリアを見据え、どのような科目を選択すれば良いのかを考えながら単位を取得していく。

われわれ教員は、例えば「生産管理がわかる営業」、「ものづくりがわかる会計士」、「経理・会計がわかるIT技術者」、「エンジニアリングがわかるマーケット」といったように、学際的知識を有する人材を排出することを目標としている。

ここまで述べてきたことが、工業大学にある当経営学部の教育的特徴である。次回からは、この五つの科目群において専門的科目を担当していただいている先生方に、それぞれの研究分野から話題を挙げてもらい、それらについて解説していただくと考えている。

厳しい経営環境に 対応できる人材育成

に魅力を感じる学生も集まってくるのが考えられる。

当経営学部はもともと工学部に所属する経営工学科



愛知工業大学経営学部教授
後藤 時政

について、ときまは 技術経営論、知財戦略論。金沢大学大学院自然科学研究科博士課程終了。博士（工学）。1968年生まれ。

営工学科も工学部より独立し、現在では経営学部として愛知工業大学の三つの学部を構成する一つとなり、学問的な守備範囲も広がってきた。

その結果、経営工学科の

